

摂食嚥下障害学

教授 久保 高明
Takaaki Kubo

現在の研究テーマと内容

栄養嚥下理学療法

徒手療法や物理療法、姿勢変更等が嚥下機能に与える影響を検討しています。また、摂取物が心身機能に及ぼす影響や、低栄養・過栄養と心身機能との関連なども研究テーマとなります。

これまでの研究成果と今後の展開

これまで学内摂食嚥下研究チームメンバーや大学院生、学部生と一緒に口腔内刺激、嚥下機能評価、温熱療法、運動療法などに関する論文発表等を行ってきました。

- ・ Uno, I., Kubo, T. (2021). Risk factors for aspiration pneumonia among elderly patients in a community-based integrated care unit: a retrospective cohort study. *Geriatrics*, 6(4), 113.
- ・ 小田原守, 大塚裕一, 宮本恵美, 古閑公治, 久保高明, 船越和美. (2019). 姿勢が最大発声時の呼吸補助筋の筋活動に及ぼす影響. *敬心・研究ジャーナル*, 3(1), 21-25.
- ・ 田代綾美, 宮本恵美, 古閑公治, 久保高明, 大塚裕一, 船越和美. (2018). 構音運動を用いた喉頭挙上訓練の検討. *言語聴覚研究/日本言語聴覚士協会 編*, 15(4), 310-320.

他

大学院を目指すみなさんへメッセージ

栄養嚥下理学療法はチームでの対応が必要な領域です。当該領域の研究を希望するみなさんに対しては、理学療法士、言語聴覚士、作業療法士、臨床検査技師、看護師、保健師で構成される摂食嚥下研究チームにより多面的な視点での研究指導、論文指導等が可能です。